

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0173800582		
法人名	有限会社ライフケア		
事業所名	グループホームひまわり		
所在地	日高郡新ひだか町静内旭町1丁目30番29号		
自己評価作成日	令和2年12月1日	評価結果市町村受理日	令和3年2月12日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan_i=true&JigyosyoCd=0173800582-00&ServiceCd=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401
訪問調査日	令和2年12月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

本年度、経営者が新しくなったことで、経営・介護の理念と方針を次のように改めております。

経営理念は『人の心を大切に想う会社』。介護理念は『自分、家族、大切な人が「最期まで暮らしたい」と思える家(ホーム)』。そして、介護方針は『人の心と命、人生を大切に介護』『人と人が共に生き、共に笑い、共に成長する介護』『人が幸福になることのできる介護』の3つです。

私たちが大切にしていることは、最期まで『人間』を『人間』として想い、愛することです。弊所では、幸いにして「介護者から入居者になるまでお世話になるね」と冗談にできる程、自分が望む介護を自分の力で実現したいという情熱や責任感のある職員が多くおります。立地としても本地域の在宅医療を担う医療機関や薬局と隣接しており、いつもと変わらない日常生活を持続しながら看取り介護を行うことができます。

他人にしたことは自分に返ってくる。憎めば憎まれ、愛せば愛される…ご家族も含めた入居者さん達、チームとして一緒に働く職員、協力して頂いている地域や関係機関の方々。愛情と感謝を忘れず、そうした『人』達を大切に想うケアであるように努めております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1) 経営の基本事項(環境、設備等の機能性、至便性等)：静かな街にあって平屋2ユニット、介護機能設備と個室との至便もよく、安らぎのあるすまい環境が整えている。

2) 職員の介護の姿勢・態度：職員は法人の理念等介護の基本に立ち、利用者の状態をよく観て、聴いて、尋ねて、応接する真摯な介護支援に努めている。

3) 家族の介護等への好感：家族は職員の介護姿勢に付き、ほぼ全員が、真摯な介護姿勢、応接の丁寧さ、要点的的確な示唆、相談対応等、高い好感を示している。

4) 運営推進会議開催状況：会議は通例、関係者の参加を得て、定例開催。日常運営や生活状況を説明して理解を求め、議事録の家族送付、所内掲出に努めている。

5) 地域組織・機関との連携：自治組織・機関との連携を図り、ともに利用者の安全・安心をこころがけている。また研修に努め、常に職員の資質向上を図っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	項 目	取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	経営者の交代に伴って経営理念、介護理念・方針を改善した。その過程において、職員と話し合いながら各ユニットの具体的な目標も設定し、理念の共有と実践を図っている。	職員は経営理念・介護理念を相互に共有して、介護の基本姿勢を保ち、利用者・家族への支援に専念している。※(経営・介護理念はアピール事項に詳細に記されている。)	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	感染症対策により本年度は著しい制限を余儀なくされている。しかし、それでも日常的な交流が継続している程に結びつきが強く、昨年度、新規に開設した認知症カフェも地域の方々に参加して頂きながら継続できている。	認知症カフェの開設や行政・包括支援センター、家族の会との連携など、地域の組織・機関等、いろいろな方々との結びつきを大切にしたいホーム作りに努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括支援センターや認知症の人を支える家族の会と連携し、地域の方々も対象にした研修会を予定している。また、前者が主催する地域向けの各種研修会に参加したり、前項の認知症カフェを開設したりしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	前回の外部評価を受け、活動の報告に加えて意見や情報の交換、それらに対する経過や結果も説明と報告を行うように改善した。議事録や広報も工夫し、入居者を含む参加者全員の発言を記載して玄関に掲示することで来所した方々に広く見て頂くことができた。また、行事と合わせて実施することで参加者の増加と多様化を図ることもできた。	会議は定例に開催。多くの家族、地域住民、包括支援センター等の参加の下に、日常の運営状況を説明し、意見・意向を運営に反映すると共に、議事録を家族に送付し理解を深めている。参加者の発言内容を玄関に掲出する等オープンな経営に努めている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	主に地域包括支援センターの方々や入居者やご家族、地域での支援や連携、研修会等に関する協力関係を築くことができています。	包括支援センターは地域情報を含めて、指導的役割を担ってくれ、ともに、各種の研修や地域活動の在り方などでの協力関係を強化している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	規程を定め、3ヵ月毎の委員会開催と報告、毎月の職員会議での検討を行っている。また、年に1回、内部研修を行い、外部での研修にも参加している(本年度は感染対策のためオンライン研修を実施している)。	身体拘束委員会は定例に開催。介護の基本事項の課題解決事項を協議して、定例職員会議に報告するとともに、職員の基本研修に役立てて、資質向上に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	前項と同様の対応を実践している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理職は地域の研修会に参加する等して学習している。実際に活用している入居者がいるので、そうした知識を職員全体で共有できるよう今後の研修に取り入れていく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約及び入居にあたっては施設見学も含む数回の面談を行っており、時間や回数をかけて質問や要望に応えながら疑問や不安を解消できるよう図っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に加えて日常的な交流が図られており、感染対策後も対面での交流が頻回に継続できている。遠方に住んでいる方にも電話や手紙を用いて交流を図っており、意見や要望を職員全員で共有し、運営や介護に反映するよう努めている。	運営推進会議には家族の参加を得て、その意見等を公開するとともに、議事録を家族に送って、運営上の理解を深めている。また日常での来訪時の相談対応にも丁寧な応接に努めている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員全員が参加する会議と共に日常的に職員と交流する機会が業務内外において図られている。経営者や管理職が交代してから職員の疑問や意見が細やかに反映されるようになったことで職員の主体的な提案が増え、自主的に改善したり新たな行事が始まったりしている。	月例の職員会議には、各職位の専門的観察報告や意見を受け止め、職員体制の主体性の強化に資するとともに、相互の学びの場としての機会とするよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	経営者の交代後、賃金を含む労働条件や福利厚生等の待遇改善に取り組んでいる。職員と話しながら意見や要望を取り入れ、3年計画で就業規則も含めた全面的な改善を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実践と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	感染対策のため外部研修への参加が困難なので内部研修に重点を置いた研修計画に改善し、相互評価やOJTを重視した職員がお互いに向上し合える体制づくりに取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	経営者の交代後、グループホーム協会が主催する研修や相互評価事業を積極的に活用している。地域包括支援センターをはじめ、道内や町内の施設同士での交流や研修にも積極的に取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居申請時点でご本人の生活歴や心身の状態、ご家族の要望等を詳細に伺っており、入居までの間の関係づくりにも活用できている。入居が決まった後は、ご自宅に伺って更に確認や相談を行っている。そうした情報や関係を生かし、実際に入居して感じる困り事等を話しやすいよう丁寧な関わりや雰囲気づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	前項の通り入居前から面談を複数回行っており、入居後1ヵ月程は特に密な連絡期間を設けてご家族の気持ちに寄り添った支援を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族、場合によっては行政・医療機関や介護支援専門員等とも連携を図って必要な支援や将来的な展望について把握し、他のサービス利用も含めた支援に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者やご家族と同じ地域に長く暮らしている職員が多いため、入居以前から馴染みの関係にある。そのため同じ地域・同じ家（ホーム）で共に生きる一員として信頼関係が築きやすい環境にある。その土台も生かしながら入居者やご家族との信頼関係を築き、生活歴や気持ちに寄り添った関わりが図られている。個々のできること、したいこと、好きなこと等を把握し、有用感や満足感のある生活となるよう努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	キーパーソンを主とするご家族への報告や相談、連絡を密に行って双方向の連携を図っている。感染対策下でも窓越しの面会や電話等での連絡が持続しており、本人や職員とご家族との関わりを維持できるよう努めている。また、写真や手書きのメッセージを添えたお便りも毎月送付している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や親戚に加えて地域の友人や知人、かつての仕事仲間まで多様な方々が訪問されたり一緒に外出されたりしている。感染対策により外出は制限されているが、面会場所・方法を工夫することで訪問が続いており、入居者の笑顔や楽しみとなっている。	利用者は家族等と長く地域に生活した人も多く、通例は、来訪時の際に、馴染みの関係を支援できるよう留意している。また、共に外出の機会もあり、その継続的関係の維持に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	年代が近いので生きてきた環境が似通っており、地域に長く暮らしてきた入居者が大半である。そのため入居前から知り合いの場合が多くあり、話も合うので孤立することなく会話が弾んでいる。いつもお互いを気にかけており、助け合う姿が自然と見られているので、職員はその関係を尊重しながら支援するよう努めている。食堂での座席にも配慮し、円滑で、適度な刺激のある人間関係が保たれるよう配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用が終了した後も運営推進会議や行事等で来所して頂いている。退居された方のご家族や知人から紹介されて入居申請にいらっしゃる方が非常に多い。加えて、その大半が弊所だけに申請している。退居された方のご家族やご親族、友人・知人の入居申請が多いことは大変ありがたいが、退居後も信頼や評価をして頂けるよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	他項に記載した通り、入居前からご本人やご家族に詳細な聞き取りをしている。入居後も自宅との違いによって感じる不安や不便さに寄り添い、ご本人から見聞きたことを基に職員やご家族との共通理解や相談を図り、ケアや環境の改善に努めている。	入所契約以降の諸資料に基づく、アセスメント記録の更新に努め、職員相互が個々の状況を共有し、理解を深めるよう努めている。また家族の支援や協力を得ることもある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	他項に記載した通り、入居申請時から生活歴や住環境を詳細に把握するよう努めている。入居決定後のアセスメントや毎月のモニタリング、ご本人とのコミュニケーションによって把握したことをケアプランに取り入れ、支援に活用している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	他項に記載した通りに把握に努めており、個人記録にも毎日の様子を詳細に記載してそれらを元に職員間の情報共有を図っている。また、ケアマネジャーと全職員が参加したモニタリングやアセスメントも毎月行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	他項に記載した通り、ご家族や医療機関との連携が図られている。全職員で行う毎月のモニタリングや定期的な評価によって、各者の意見やアイデアを反映したケアプランを作成している。	定例のモニタリング会議や記録を基に、計画作成者を中心に各職位の意見・意向を協議して、最適の計画・変更を目指している。家族の意向とも含めて理解を図っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本年度、個々の実態や要望が把握しやすいよう個人記録の全面的な改善を行った。職員間での情報共有はそれ以前から毎日行われており、休んでいた職員も出勤時に記録を確認することで現状を把握できるようにしている。また、ケアプランについても毎月見直しや検討が行われている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族を第一に考え、地域の医療・福祉・行政機関と連携して他施設での短期入所や通所介護を併用したり、弊所で同様の受け入れや認知症カフェの新設したり、ニーズに合わせたサービスを活用できるよう柔軟な対応に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会や近隣の施設等の行事に参加したり、地域の方々を招いて芸能発表や創作活動したり、行事や防災訓練等に参加して頂いており、地域資源を活用した運営や介護に努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設に隣接してかかりつけ医のクリニックと総合病院があり、隔週の往診以外にも毎日のように医師や看護師の訪問がある。その他の通院に関しても個々の実態に応じて移動や付き添いの支援ができています。	かかりつけ医の受診は基本的支援事項と捉え、個々の実情に応じた支援に努めている。また隔週の協力医療機関の医師・看護師の往診対応に努めて、健康維持の万全に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	前項の通り、日常的な協力関係が築かれているおかげで些細な変化でも相談や確認ができており、すぐに対応することができている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	他項に記載した通り、立地を生かした連携が図られており、地域全体でも連携体制が築かれている。日常的な関係づくりや連絡体制が整備されているので入退院に伴う情報交換や早期退院といった支援も実現できている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでい	経営者交代後、入居時にご本人やご家族の希望を伺っており、医療機関との連携によって望まれている通りの看取り介護を実践できている。	重度化等の対応については、契約時の「重度化等対応指針」に基づき、個々の心身の変化に応じて、家族・協力医療機関等との協議の下に最適対応に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	本年度、マニュアルの全面的な改善が行われ、急変や事故の対応について職員全員で研修や訓練が行われるようになった。また、地域の医療機関や消防署とも連携し、定期的に指導や訓練を受けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の消防署や業者と連携し、毎年2回指導や訓練を受けている。感染対策前から運営推進会議を通して防災や搜索等について連携しており、包括支援センターや自治会等に協力して頂きながら訓練が行われている。	訓練には防災官署の協力を得て、想定訓練を計画し年2回実施している。日常の設備等の点検、内部組織の強化、備品・備蓄等にも留意。また地域等の協力も得ている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本年度、経営理念、介護理念・方針を改善し、人を人として尊重し、その心と生命、人生を大切に想う介護が実現されるよう努めている。個人の尊厳や自立支援等についても研修を行い、日常の生活や介護において全職員に徹底されるよう努めている。	新たな理念・方針の下に、介護の基本に立ち、個々のその人なりのあり方を踏まえて、尊厳・個別性の大切さを損ねることのない支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	理念や方針の通り、ご本人の意思や希望に合わせた選択や決定に基づいて活動できるよう支援している。また、表情や小さな行動にも気を配ることでご本人の気持ちを確かめたり推し測ったりしながら言葉にできない思いや希望にも寄り添えるようコミュニケーションに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	健康維持や清潔保持といったことであってもご本人と相談しながら決めており、生活全般において個々の生き方が尊重された過ごし方ができるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご家族と連携や相談しながら理容や衣類、化粧等の支援に努めており、その人らしいおしゃれや清潔保持ができるよう努めている。特に行事や外出の際は相談しながらおしゃれを楽しんでいただけるよう支援している。入居後も職員が馴染みの美容室へ同行したり、地域の理容師に訪問してもらったりしている。また、職員も染髪やパーマをしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	美味しく、かつ楽しく食事できるよう専門の調理員が一から手作し、最期まで経口摂取ができるよう個々の好みや実態に応じた食材やメニュー、味つけ、形状等を工夫している。特に誕生日や行事の際は個別に食べたい物を伺って寿司やケーキ、オードブルといった工夫もしている。また、調理や片付け等も健康や習慣が保持されるよう配慮し、一緒に取り組んで頂いている。	食事の支援にあっては、個々の心身状態や嗜好等に配慮して、美味しく楽しい食事の時とするよう努めている。調理員の手作りで、食材・味付け等に留意し、行事・季節に応じた組み合わせなどの配食に努め、共に楽しむ機会としている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	飲食毎に量や状況を記録して把握し、ご家族や調理師、医療機関と連携しながら個々の生活歴や嗜好に合わせた支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に歯や舌をケアしており、ご本人ができない部分は支援して口腔内の清潔を保っている。歯ブラシや義歯ブラシに加えてガーゼや口腔ウエット、職員が手作したブラシ等、個々の実態に応じた手立てを工夫してケアしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	他項に記載した通り、本年度、個人記録等の文書を全面的に改善し、排泄を含む健康管理や医療との連携がしやすいようになった。それらの記録から個々の実態を把握し、できるだけ布の下着を使って、パットを使わなくても安心して自力での排泄ができるよう支援している。	個々の排泄は自立支援を基本として、職員相互の理解の下に、記録等の共有、健康状態、食事の摂取等にも留意して自立支援に当たっている。また、着衣等についても家族と相談の上必要に応じた対応に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	他項に記載した通り、飲食物は個々の摂取状況を記録しており、毎日のレクリエーションや散歩等によっても便秘の予防に努めている。下剤ありきで考えず、牛乳や甘酒のように個々の好きな物で自力排便が促されるように工夫している。医師や看護師、薬剤師との日常的な連携が図られているので排便の把握や下剤の調整も細かく行われている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	気温や食事等の健康上の理由から基本的には午後に入浴して頂いているが、曜日や時間は固定ではない。個々の希望や習慣(生活歴や好み)に合わせたタイミングや順番、湯温等にし、お一人ずつ2～3日に1回入浴して頂けるよう支援している。体調等によってはシャワー浴や手・足浴、ドライシャンプー、全身・部分清拭(更衣)といった配慮をし、清潔保持に努めている。	入浴時間は、基本的には午後を充て、週2～3回程度としている。個々の心身の状態や当日の気分等をよく受け止めて、シャワー・足浴・部分清拭など、楽しく安らぎのある入浴となるよう促している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝や消灯の時刻は定めていないので、個々の習慣(生活歴)や心身の状態に応じて支援している。日中の散歩やレクリエーション、昼寝等によっても安眠や休息の調整を図っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情は他の医療情報と共に一元管理し、個々の状況を把握している。服薬に際しては氏名や日付等を複数回確認し、飲み込むまでの確認を徹底している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の特技や職業といった生活歴、現在の能力に応じて家事や栽培等の活動ができるよう環境や支援を工夫している。また、同様の観点からテレビ番組や音楽の鑑賞、編み物、読書等の趣味や楽しみ、生きがいを継続できるよう配慮している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	感染対策のため施設外での活動が制限されてしまっているが、その分、施設周辺での散歩や農作業等によって屋外での楽しみが持てるよう支援している。	通例は、ホームの庭畑の作業や施設周辺の散歩等で、四季の風を味わい、静かな街のたたずまいを楽しめるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	研修を行うと共に入居者個々の実態に応じた金銭管理の支援をしている。昨年度までは買い物や外食に出かけていたが、感染対策後は施設内で同様の体験ができるよう行事を企画・実施している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	感染対策前からご家族と電話や手紙での交流が図られており、現状でも変わりなく持続できている。ご本人の写真や手書きのメッセージを添えて季節に合わせたカードを送る等の交流も行われている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	本年度、温度や湿度等に関する基準を定め、住環境のマニュアルを整備した。また、季節毎に食堂や玄関の壁面装飾と置物を変えたり、ボランティアによる手芸クラブで入居者が作った物を掲示したりしている。時計やカレンダー、職員の写真等、時間や人物といった認知機能を支援する掲示にも工夫している。	ホームは平屋建ての2ユニットで、玄関が別のユニット単位のつくり。居間を中心にキッチン、居室が囲み、サロンやテラスが南面にあり、小上がり等家庭的雰囲気味わえる。季節に応じた飾りつけやボランティア作成の置物など安らぎ多い居間空間。温・湿度・採光等の管理もよく、居心地良い住まいの雰囲気の環境にある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	本年度、共有空間の環境を全面的に改善してテーブルやソファ、テレビ等の配置を変えた。少人数で集まれる場所、一人で静かに過ごせる場所、趣味が合う仲間と過ごせる場所、気の合う方々にぎやかに話せる場所等、様々な要望や実態に合わせられるよう環境を整えた。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人やご家族と相談しながら使い慣れた物を配置し、ご家族の写真や手作りの物等も個々の実態に合わせて掲示するよう工夫している。散歩の際に摘んだ花を飾ったり、壁いっぱいにお孫さんの写真を並べたり、好きな物に囲まれながら思い思いに過ごせるよう工夫している。	本人や家族の協力を得て、利用者の馴染み・好みの飾りつけや写真等、家具・調度品などを設え、居心地良い居室づくりを支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安心と安全が保たれ、転倒や衝突といった事故や怪我がないように個室や共有空間に認知能力や身体能力に応じた表示、動線の確保、家具や手すりの設置をしている。娯楽や清掃等に関する用具も自由に使えるよう設置している。		